

1. はこぶね認定こども園の教育方針

教育目標は 1976年に粕屋町に唯一の私立幼稚園として建てられた建学の精神に基づき、下記の教育目標を掲げます。

◎キリスト教精神に基づいた幼児教育・保育

礼拝と祈りの中で、神に愛されている大切な神の子であることが教えられ、それゆえに他者を受する心、他者に感謝する心、他者を思いやる心などが教えられます。このように心の教育を大切にします。

◎学ぼうとする意欲を深める

子どもは「遊び」を通して多くの「学び」をなし、創造性、協調性などが養われる、と思われます。それに少しの動機づけないし道筋をつけることにより、自ら進んで楽しさを見出し、自ら学ぶ意欲が深まります。絵本の読み聞かせ、数遊び、歌や楽器の演奏、その他の手段を用いて、更に学ぼうとする意欲を深めます。

◎健康な体を育むために体を動かす。

比較的広い園庭(ビジョン棟新築に伴い、園庭が整備されました)で、精一杯遊び、走り、夏は豊かな井戸水でプール遊びを楽しむなど、基礎体力の向上を目指します。
更に、教師の研修・研鑽により、子どもの意欲を引き出し、プログラムのもとに全員が一つの課題ないし目標の達成を目指し、達成した喜びや、感動を共有します。そのために「毎日少しずつ」の練習をします。

2. 評価項目の取り組みと評価

項目は6つに分かれています。自己評価の評価ポイントは各項目及び設問＜良い：3・普通：2・不十分：1＞の平均ポイントです。評価は最高3点～最低1点で記載しています。
学校関係者評価のポイントは各項目の取組と自己評価の＜良い：3・普通：2・不十分：1＞の評価です。評価点は評価委員の平均点です。最高3点～最低1点で記載しています。

項目	年度目標へ取り組みとコメント	自己評価	学校関係者	評価とコメント
①保育の計画性 教育目標に沿った指導計画を立てて、各学年、年齢にあった計画を立てていく。改革を見直し、全員で共通理解を深めていく。	・各学年、カリキュラムを作成し、年齢にあった保育計画を立てていた。その都度、こどもにあった保育ができていたか反省点や改善を見直し、職員で共通理解を深めていきました。また毎日の日案は声楽、体操、英語も含めて、各学年がスムーズに保育ができるように連携をとっていきました。	2.7	2.8	・教育目標に基づいて、各学年別に年間目標を設定して計画を立てています。あくまでもノルマでなく日々の取り組みの成果の確認、進捗度をもとに計画を見直すことで園児の成長に繋がる目安としています。
②保育の在り方・子どもへの対応 子どもたち一人一人に合った声掛けをしていきながら個別の対応を心掛ける。また子どもたちに問いかけながら自分で考えれるような声掛けをする。	・子どもたち一人一人にあった言葉かけ、対応を全職員で行うようにしていった。各活動では、子どもの成長に応じたチームに分けて、活動内容を計画し、できたことの喜び、達成感をたくさん経験できるように保育していきました。	2.8	2.8	・現代の子どもたちの育ってきた環境、過程を踏まえて園児一人ひとりの状況に応じた課題を与えるようにしています。状況に応じてチーム分けを行い、できる喜びを経験できるように配慮しています。
③保育者としての能力や良識 職員同士でコミュニケーションをとり、話し合いの時間を大切にする。 報告・連絡・相談を徹底する。 保育者としての身だしなみを整え、明るい挨拶を心掛ける。	職員会議を行い、みんなが同じ目標に向かって向上心を高めていきました。また研修に参加して様々な分野で学び、スキルを高められるように学んでいきました。	2.8	2.8	・園の教育方針を理解し園児の成長と保護者の期待に添えるように職員の意識・価値観を高めて共有できるように研修を行っています。 ・園児の成長に関わる教育活動、生活習慣において段階的な進進に配慮し、何事も基礎基本の重要性を考えて大切にしています。
④保護者への対応 保護者の方に、園の様子を伝えていきながら共有し、信頼関係を気づいていく 園の行事を通して子どもたちの成長を見てもらう	職員としての自覚を持ち、保護者への対応を丁寧に行えるように常に心がけていくようにしました。保護者からの連絡は復唱して確認をしてミスのないように報告・連絡・相談を徹底していきました。	2.7	2.8	・保護者対応について社会人としての一般常識を学び、相手に失礼が無いように注意しています。対面での対応、電話応対、言葉づかい、身だしなみなど園職員としての自覚と責任を忘れずに取り組んでいます。
⑤地域の自然や社会との関わり 地域とのつながりを大切にし、花の日訪問では、お花を届ける。 実習生を受け入れ、互いに学ぶ、気持ちをもち、交流を深めていく。	職員同士、子どもたちや保護者に目を見て声のトーンも意識しながら元気な挨拶を心がけていきました。地域の方とのつながりを大切に、行事を通して日頃の感謝の気持ちを伝えました。親子クラブや見学会を通して未就児の子どもたちや保護者の子育て支援に繋がるように行いました。	2.9	2.8	・日頃から登降園時の挨拶を行い、園外から訪問さる方にも気持ちの良い挨拶ができるようにしています。 ・様々な行事を通して自然の力、生命の大切さを学ぶ機会を設けています。
⑥研修と研究 自ら研修を受け、学ぶ気持ちを大切に する。質の向上としてレベルアップしていき子どもたちの育ちにつなげていく	子どもたちが過ごす保育室や全体の環境を整え、子どもたちが気持ちよく過ごせるように見直していきました。また職員会議を通して共通理解を深めていきました。	2.8	2.8	・毎月の保育研修にて、保育に関わる職員は、子どもに対してより良い環境や、やる気を引き出す目標設定などを研究、討議、そして共有している。 また、年に2回は社会人として、また、園職員としての考え方や、振る舞い等も研修を実施し、改善向上している。

3. 自己評価を通して翌年度へ向けて課題と取り組み

- ・様々な分野の研修を研修を受けて、職員全員で共通理解を深めていく。
- ・園内の点検を行いながら、危険な場所がないように確認していく。
- ・職員同士のコミュニケーションをとりながら、報告・連絡・相談の徹底に努める。

4. 近隣とのトラブルや苦情について

令和6年度は特にありませんでした。当園の苦情委員会メンバーから情報共有済みです。

5. その他

特になし。